

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	55	学校名	中津川工業高等学校
------	----	-----	-----------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域の産業教育を担う工業高校として 伝統を大切に、新しい知見を取り入れたものづくり教育を通して 地域産業を支える人材の育成を目指す学校	
学校教育目標 (教育方針)	<ol style="list-style-type: none"> 1 明朗で健康な心身を育成する（健康にして明朗、友愛に満ちた教養ある社会人となるべき資質を養う） 2 自主創造性の伸長を図る（自ら考え判断し、表現する力を身につけ、創造性の基礎を培う） 3 誠実で勤労を愛する態度を養う（専門的な知識・技能に習熟し、勤労を尊び、誠実にことにあたる人材を育成する） 4 自然を愛する豊かな心を育てる（自然を愛し、生命を尊重するとともに、相手を思いやる心や社会性を養う） 	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・工業ならではの知識・技術・スキルの向上をめざし、主体的に他者と協働して課題解決に取り組む生徒 ・多様な人々の互いの人格を尊重し、人と人とのつながりを大切に、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・グローバルな視点から問題の核心を把握し、その解決を目指し地域や社会に貢献できる生徒
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・課題発見力・課題解決力を育成するための「主体的・対話的で深い学び」や「実習」、「課題研究」の推進 ・「課題研究」や教科学習、ICTの活用による、コミュニケーション能力とプレゼンテーション力の育成 ・生徒一人ひとりの個性を尊重し長所を十分に伸ばし、深い学びを実現するためのカリキュラムの編成と個々に応じた細かな指導の実施
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりや工業分野に興味があり、向上心を持ち、多様性を尊重し、他者と協働しながら主体的に学びたい生徒 ・自分の将来に目標を持ち、多様な学びに主体的に取り組み、自らの可能性に挑戦したいという意欲のある生徒 ・地域活動などの校外の自主的な活動や、学校行事や部活動などの校内の活動に積極的に参加し、思いやりを持って関わろうとする意欲のある生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・目的意識の希薄による学習意欲や関心の低下と欠席や遅刻の増加 ・生徒間の能力差が拡大している中で、個々の能力を最大限に引き出す方策 ・多様化する生徒の増加による生徒一人一人への個に応じた支援方法と関係機関との連携を視野に入れた体制 ・職員の欠員や個に応じた支援、また新しい技術や準備に伴う職員の負担 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	・目的意識を明確にし、生徒一人ひとりが十分に成長できるための指導と評価の工夫
	生徒指導	・多様化する生徒に応じた支援の充実や関係機関との連携強化と他人を思いやり誠実で信頼できる生徒の育成
	進路指導	・自己の在り方生き方を考え、自分らしく生きていくために、主体的に進路を選択できる能力や態度の育成
	その他	・専門性を高め、将来の地域を担う人材の育成

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	・目標の見える化と振り返りの重視	施策Ⅱ-8	①自己評価 ②学期毎の評価と生徒の姿勢 ③生徒・保護者へのアンケート	○校訓『誠実・信頼』および教育目標を教室に掲示することで、学校の指針を示し、生徒が向かうべき方向を明確にした。 ○欠点保持者に対して、期限を意識した計画的な補充指導を行い、学習の定着と改善に向けた支援を行うことができた。一方で2学期末時点で進級条件を満たしていない生徒が約10%存在した。	B	校訓を軸に、生徒に対して本校の目指す姿を様々な場面で示すことができた。現時点では目に見える大きな変化は少ないものの、継続的な取り組みにより、少しずつ浸透していくことが期待される。期限を意識させた指導の成果として、不合格者の減少という確かな成果が見られた。今後は目的意識を高める指導と評価の工夫を通じて、学習意欲の向上と理解の定着を図りたい。また、学習に意欲的な生徒の学びを保障するため、授業態度に課題がある生徒には毅然とした対応を徹底する。	
	・評価規準を踏まえた「指導と評価の一体化」の研究	施策Ⅱ-14					
	・基礎学力の充実と個に応じた学習支援	施策Ⅳ-21					
生徒指導	・教育相談活動や人権教育の充実	施策Ⅰ-1	①自己評価 ②生徒・保護者へのアンケート ③学校関係者評価	○教育相談期間を設け生徒との信頼関係構築に努めた。また、ケース会議を積極的に行いSCやS相との連携が具体的に進めることができ、支援体制の充実を行った。 ○学年会、学科会、教育相談会議での情報共有を強化できた。 ○情報モラルに関し、教科や分掌から指導や外部講師による講演を実施することができた。 ○男女間トラブル等があり、外部講師による人権講話を実施した。	B	教育相談活動を通じて、生徒の多様な悩みに対応することができた。不登校傾向の生徒の中には、前向きな進路選択を促し、将来への意欲を育成することができた。また、SCとの連携により、進級指導につながった生徒では、対人関係の改善が見られ、社会性の向上に結びついている。さらに、SNSの適切な利用について、生徒の理解が深まり、いじめ対応においては、生徒からの情報提供により迅速かつ組織的な対応ができた。 課題として、校内で器物破損が増加し、犯人の特定が困難な状況が見られた。また、特性を持つ生徒同士のトラブルが増加し、対応に苦慮する場面もあった。規範意識や人間関係を円滑に構築する方策が必要である。	B
	・SC、S相、SSW、弁護士等の関係機関との連携	施策Ⅰ-3					
	・情報モラル教育	施策Ⅱ-9					
進路指導	・企業、保護者と連携した進路支援	施策Ⅰ-7	①進路実現の結果 ②生徒・保護者へのアンケート ③就職進学模試の結果	○企業や卒業生の協力あるいは地域の行政機関と連携し、生徒の進路意識を高め、進路支援体制を充実できた。 ○各種ガイダンスや保護者参加型の面接指導を通じて、客観的な視点からの支援を充実した。 ○ICTを活用し、いつでもどこでも求人票を閲覧できる仕組みを構築し、進路情報の提供を円滑かつ効率的に実施できた。 ○就職希望者向けの模試や進学希望者向けの補習を実施し、進路決定を支援できた。	B	進路カウンセリングや様々な進路行事を実施でき、キャリア教育を充実することができた。また、ICTを活用した求人票の閲覧や履歴書作成が定着し、進路準備の効率化が進んだ。さらに、地元就職について行政との共通理解を深め、具体的な取組を進めることができた。 一方で、就職試験において不合格者が数名生じたことや、進路選択において主体的な行動ができない生徒が増加傾向にある。今後は、個別支援の強化と主体性を育むキャリア教育の工夫が求められる。	
	・キャリアカウンセリングの充実と進路ガイダンス等の効果的な活用	施策Ⅱ-13					
	・ICTを活用した進路支援	施策Ⅳ-27					
その他	・地域課題探究推進事業の展開	施策Ⅳ-20	①企業地域との連携回数 ②学校関係者評価 ③ものづくりコンテストの結果 ④資格取得率	○地域の子どもたちを対象としたものづくりイベントやテクノボランティア、六斎市への参加を通じて、地域との連携を深めることができた。 ○ものづくりコンテストに向け、実習で学習した技術を軸に工業系部活動で技術向上に取り組んだ。 ○生徒の実践的な学びを深化させるため、専門家による特別授業を実施した。 ○日常的な安全教育に加え、行事前には重点的な安全指導を行った。	B	地域課題探究型学習推進事業の研究指定を受け、様々な分野との連携を通じて専門性を高めることと同時に学校PRにもつながった。また、ものづくりコンテストでは敢闘賞、奨励賞、国際たくみ校長賞に入賞できた。今後は全国大会出場を目指した取り組みをさらに充実させたい。 基礎学力が低迷している生徒が多い現状を踏まえ、高度な専門知識へ引き上げるための効果的な方策を工夫する必要がある。 来年度に向け、地域や企業と連携した事業を継続・拡充するとともに、施設設備の整備の要望を継続的に進め、学習環境を改善することで専門性の向上を図りたい。	
	・専門性を高める指導	施策Ⅱ-14					
	・安全教育の充実	施策Ⅲ-19					

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年2月2日

<p>①高度な専門知識への引き上げを図るため、基礎学力の定着と効果的な学習方策の工夫、さらに向上心を育む評価の在り方の研究を通じて、目的意識を持った授業参加を促す。</p> <p>②学習到達度が低い生徒への個別支援強化により、授業態度の改善と学習成果の向上を図る。</p> <p>③いじめ、情報モラル、器物破損への予防と早期対応の仕組みを強化し、効果的な防止策を講じる。</p> <p>④特性を持つ生徒が増加する中で、指導の難しさが顕著になっている。個々の状況に応じた柔軟な対応が一層求められており、職員間の情報共有に加えて、生徒の背景理解や外部機関との連携を強化する。</p> <p>⑤規範意識を基盤に、授業態度の改善を図り、礼儀・挨拶の定着とソーシャルスキルの育成を推進する。</p> <p>⑥主体的な進路選択を促し、キャリア教育を体系的に推進しながら、早期・計画的な就職試験対策と職業理解を徹底を図る。</p> <p>⑦キャリアカウンセリングによる個別支援強化で、不合格者の縮減と進路ミスマッチ防止を目指す。</p> <p>⑧地域課題探究推進事業を核に、他機関との連携を強化し、専門性と協働力を育て、その取組を効果的に発信するため体制を見直し、保護者や地域に学校への理解を広げる。</p> <p>⑨老朽化施設の更新と最新技術を学べる環境整備に努める。</p>
--

学校関係者評価

実施日：令和8年2月2日

<p>①教職員の対応と姿勢： 保護者や地域への応対は適切で、学校経営や教育活動に熱心に取り組んでいる。</p> <p>②情報発信と信頼性： ホームページやメール、「すぐーる」を活用した情報発信が効果的で、徴収金の処理や公表も適切に行われている。</p> <p>③教育活動の充実： 学校行事や部活動、ものづくり教育、資格取得指導、進路指導などが生徒の学校生活を豊かにし、保護者から高い評価を得ている。</p> <p>④生徒の規範意識と課題： マナーや社会規範の指導は一定の評価があるが、挨拶など礼儀の定着には課題が残る。</p> <p>⑤学校理解： 学校関係者に教育目標や行事の取組に関する理解が十分に浸透していない。</p>
--